佐賀市立兵庫小学校　　高峰　勤

１　学年・単元名

第１学年
単元名「たのしいあきいっぱい」

２　主張点

生活科で理科的な内容を含む学習の際に，理科の見方の種を蒔いておくことで，３年生になって，スムーズに理科の見方を働かせながら考えることができるようにする。

本単元では，工夫しておもちゃをつくったり遊びを楽しんだりする。そこで，木の実の量やコップの大きさ，糸の長さ等の条件を変えた複数のおもちゃをつくって比較させて，おもちゃの音や動きが違うことに気付かせ，自分の思いに合ったものを選ばせる。また，「やればできるカード」を書かせたり，友達と一緒に遊んだりすることで，気付いた違いを共有し，さらに工夫して遊ぶ楽しさに気付かせ，もっと楽しいおもちゃをつくろうと粘り強く取り組むことができるようにした。

３　単元学習計画

学習過程	児童の学習活動	時数
ふれる	・校庭や公園で秋の自然に触れ，季節の変化や自然を使った遊びを楽しむ。	6
さぐる	・自然物（拾ってきた木の実や葉など）を使っておもちゃをつくる。	
	○「どんぐりごま」を全員でつくって遊ぶ。	1
	○他に遊んでみたいおもちゃをつくって遊ぶ。	2
	○つくったおもちゃで友達と一緒に遊ぶ。	1
	○もっと楽しいおもちゃにならないか工夫しながらつくる。	２（本時）
	○工夫してつくったおもちゃで友達と一緒に遊ぶ。	1
いかす	・つくったおもちゃを幼稚園・保育園の子供たちと一緒に遊ぶ。	9

４　本時の目標

自然物を使ったおもちゃを工夫してつくったり，遊んだりすることができる。

５　授業の実際

学習活動や児童の様子	指導の留意点
１．既習を振り返る。 ＜児童の反応＞ （どんぐりゴマ）「もっとよく回るようにしたい。」 （けん玉）「難しいけん玉にしたい。」 （魚つり）「たくさん釣れるようにしたい。」 （マラカス）「いい音が出るようにしたい。」 （やじろべえ）「ちょっと触っても落ちないようにしたい。」 （的入れ）「まとにたくさん入るようにしたい。」	・本時の活動の目的を明確にするために，これまでの学習を振り返らせ，児童がどのような思いをもっているのかを確認し，児童の反応を板書する。 ・工夫のヒントにするために，それぞれの遊びごとにどうすればもっと楽しいおもちゃになるか一緒に考え，発言させる。 ・長さ，量，大きさ，形，のキーワードとなる言葉が児童から出てきた時には，大いに褒め価値づける。 ・どちらがよいか比べるために，条件の違うおもちゃを２つ作ってみるとよいことに気付かせる。

２．「めあて」をつかむ。

もっとたのしいおもちゃになるように、おもちゃをくらべてあそんでみよう。

３．注意事項を確認する。

・スムーズに制作が進むように，つくるのに必要な材料や用具が置いてある場所を知らせる。
・穴あけ器やかるこを使う場所を決め，安全に道具を使わせるようにする。

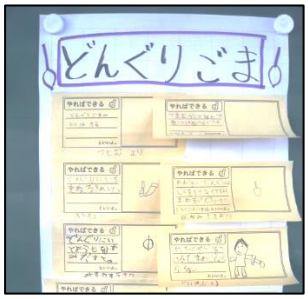
４．おもちゃづくりをする。

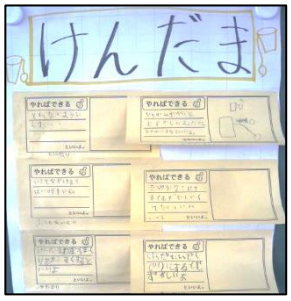
・グループごとに，どのようなところに気を付けてつくっているのかを尋ね，児童の工夫しようとしている点を把握する。
・工夫して制作している児童を褒めたり，工夫しているところをグループの友達に伝えたりして，活動に意欲をもたせる。
・条件を変えたおもちゃを一緒に作り，音や動きを確かめ，自分の思いに合ったおもちゃを見つけさせる。
・進んで条件を変えたおもちゃを作って比べている児童を大いに褒め，全体に紹介する。
・思うように活動が進まない児童には，同じグループの友達の作品を見せてもらったり，工夫している友達に教えてもらったりするように促す。また，やればできるカードを見に行くように声をかける。

〇工夫していた点
〈どんぐりゴマ〉
・どんぐりの大きさ
・楊枝の長さ
・回し方
〈けんだま〉
・マツボックリの大きさ
・ひもの長さ
〈魚つり〉
・ひっかけるもの
・あなの大きさ
〈マラカス〉
・中に入れる物の大きさ
・中に入れる物の量
〈やじろべえ〉
・軸の長さ
・支える物
〈まといれ〉
・投げるものの大きさ
・まとの大きさ

５．「振り返り」をする。
＜児童の反応＞
（どんぐりゴマ）「つまようじを短くしたら，長く回るようになった。」
（けん玉）「糸が短いけん玉よりも，糸が長いけん玉のほうが難しい。」
（魚つり）「魚にあける穴を大きくしたら，よく釣れるようになった。」
（やじろべえ）「竹串を長くしたら，ちょっと触っても落ちなくなった。」
（的入れ）「まとを大きくしたら，たくさん入るようになった。」

・友達同士で工夫したことが共有できるように，「やればできるカード」を書かせる。





・ふりかえりカードや，「やればできるカード」を書くことで，自分や友達の頑張りに気付かせる。

６　考察

・条件を変えたおもちゃを比べ違いを見つけさせることで，自分の考えに自信をもち，工夫の仕方が分からない友達に進んで教える児童の姿が増えた。
・「やればできるカード」を掲示することで，友達に話しかけるのが苦手な児童も，気軽にカードを見に行き，工夫の視点に気付くことができていた。また，教師側の評価もしやすくなった。
・生活科のおもちゃづくりは，量的・質的な見方を働かせながら活動することが多かった。他の生活科の単元では，どのような見方の種を蒔くことができるかを考えながら，指導していきたい。